

平成22年度事務事業実績及び前期4年間取組評価表

事務事業名	先進都市まちづくり交流事業	会計	一般会計	事業No.	65	施策順No.	81-001
		事業種別	政策・重点	予算科目	2-1-9-11-19		
政策	8 交流と連携が活力を生むまちづくり				課等名	企画課	
施策	81 都市間交流の推進	事業期間	開始	19	終了		

1 事業の目的

事業の目的は「対象」を「意図」した状態にすることです	対象	飯田市						A十分達成した Bどちらかといえば達成した Cどちらかといえばできていない Dほとんど達成できていない	
	誰、何に	自治体の単位	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度		
	意図	自立した地方都市となる。 持続可能な地域経営ができる。							
対象をどう変えるか	意図	事業の成果を具体的な数値で表すと(成果指標)	19年度実績	20年度実績	21年度実績	22年度目標	22年度実績	23年度目標	目標達成度
		交流を行った者からの情報提供の数	3	6	9	10	16	15	A
22年度の目標達成度に対する振り返り【政策的事業のみ評価】	事業報告及び事業実施の情報について、市民への周知を図った上で、実施回数を増やした結果、参加者の増加につながり、より多くの情報提供につながった。								

2 手段(具体的な取り組み内容)

事業の制度(仕組み)説明	<ul style="list-style-type: none"> 環境・自然エネルギー政策、都市計画と駅前開発への取り組み等、新たなパラダイムシフトに備えた先進的なまちづくりの実践に向けて、経済的・文化的に自立し、持続可能な地域社会を形成している海外の先進都市を視察訪問し、学習や交流を通じて市民レベルの交流を深め、「文化経済自立都市」の実現につなげていく。 平成17年度に行った「日独地域国際化サミットin飯田」及び平成18年度「同サミットinウルム」が契機となり、平成19年度にはドイツウルム市からの職員を受入れ、平成20年度は飯田市職員をウルム市に研修派遣した。また、平成21年度からは、市民交流を深めるため、ドイツを中心に市民の研修視察を実施している。 環境と都市計画に関する様々な蓄積の交流から、両市のまちづくりに役立てていく。 		
	事業内容	名称	活動量・単位
22年度事業内容	ドイツウルム市・台湾における政策研修及び市民交流の実施 研修期間9月～3月 (1) 目的 ア 市民を中心として、環境や都市計画等の先進事例を学ぶとともに相互交流を深める イ 多様な視点による他地域の事例視察によって、幅広い市政経営への実践につなげていく ウ 世界の高速交通機関の整備の実態とそれにとまちなまちづくり(土地利用や産業等)の手法を学ぶ (2) 研修内容 ア 都市計画、交通機関の整備に伴うまちづくり、環境政策、市街地の活性化等を学ぶ イ 市民レベルの交流を深める	派遣人数 研修報告会開催回数 情報発信の回数	8人 2回(各コース1回) 2回(各コース1回)
23年度実施計画	海外の先進的な取り組みを実践している地方都市を訪問し、政策研修及び市民交流を図る。また、それらの「学び」を通して、当地域への想いや願いを具現化していくグローバル人材の育成や、参加者自身がそのために求められるスキルを身につける等の「気づき」につなげていく。特に23年度は、地域の将来を担う若者が、人生の中で多感な時期に、直接異文化を体験し、多様な社会に身を置くことで、国際理解を深めるとともに、地域の将来を担うグローバル人材として成長していくことをねらいとする。(研修期間:約1週間) (1)目的 ア 先進都市における国際競争力のある地域政策を学び、当地域がめざす将来像につなげていく イ 海外先進都市との市民交流を拡大し、相互の情報及び人的交流を推進する (2)研修内容 ア 高速交通機関を活用した地域政策(都市計画、観光政策、福祉、人材育成等)を学ぶ イ 文化事業や市民生活を体験し、市民レベルの交流を深める	派遣人数 研修報告会開催回数 情報発信の回数	人 回 回

3 事業コスト

事業費	特定財源	(千円)	22年度予算額	22年度決算額	23年度予算額	特定財源内訳、補足事項
	国庫支出金					
	県支出金					
	起債					
	その他					
一般財源		1,000	880	950		
計(A)		1,000	880	950		
正規職員所要時間						
臨時職員等所要時間						
人件費計(B)			0			
トータルコスト A+B			880			

4 事業に対する市民や議会の意見

平成17年度に実施した日独地域国際化サミットに関わった市民実行委員からは、このサミットをきっかけに更に先進的なドイツのまちづくりの手法等を学びたいとの声がある。市民同士の交流を更に深めていきたいとの要望も増えている。周辺環境の変化に伴う地域政策のあり方について、先進地域の手法を学びたいという意見がある。

5 行財政改革の取組内容【経常的事業のみ評価】

行財政改革の取組区分	【記載不要】	具体的な取組事項	【政策的事業のため記載不要】
21年度決算と比べての効果額(千円)	【記載不要】	効果額説明(算出根拠)、特殊要因	【政策的事業のため記載不要】

6 前期4年間の取組評価(総括)

上位の施策への結びつき	上位施策の目的	・市民が、飯田市や自分に無い知識や情報に触れること、そして、相手にない情報を発信する。	施策の成果指標又はムトス指標	姉妹都市・友好都市提携、政策連携(大学・海外都市を含む)・防災協定などをした団体・組織の数(三遠南信、中京圏を除く)
この事務事業は施策の目的達成にどのよう貢献しましたか	4年間の振り返り	・本事業を通じて、参加した市民が環境・エネルギー政策、都市計画や人材育成等の先進事例を学び、その内容を市民に広く共有させることにつながられた。また、そこから新たに市民同士の交流につながることができた。		
	後期に向けた課題	・「小さな世界都市」を目指す当市にとって、将来に向けた地域人材の育成、確保は不可欠である。その中で、本事業を他施策他事業とも関連付けられた内容に発展させていく必要がある。		
この事務事業の成果を向上させるためにどのような工夫をしてみましたか	4年間の振り返り	・参加者と市民の情報交換の場として、報告会を開催するとともに、参加者の報告レポートを公開した。これによって、新たな参加者募集につながられた。		
	後期に向けた課題	・参加者の多様な視点を効果的にまちづくりにつなげていく手段が不足している。様々な場において、参加者を活かすことができるような工夫が必要である。		
コストを削減するためにどのような工夫をしてみましたか	4年間の振り返り	・本事業の積み重ねにより構築された人的ネットワークを通じて、各種研修に要する費用の削減につながることができた。		
	後期に向けた課題	・本事業では、市民が参加する個人研修に対して、一定額を補助することとしているが、実施時期や地域によって研修費用がふくらむ等の外的要因に左右されることがある。状況に応じて、支援のあり方を流動的に変えられるような要綱を整えておく必要がある。		
受益者負担の程度、市が関与する程度は適切でしたか	4年間の振り返り	・市の方針に基づき、参加者自身が研修プログラムの内容及び行程等の組み立てに関わり、事前学習をした上で研修実施するという流れの中で、市がそのコーディネートを支援したり、費用の一部を支援することで、参加者にも応分の負担が求められ、参加者自身の主体性や学習意欲向上が保持された。		
	後期に向けた課題	・研修プログラムの内容に発展性が不足している。今までの経緯を踏まえてより発展的なものにしていく必要があるため、参加者自身が問題提起し、そのための交流プログラムを作っていく必要がある。		
多様な主体の役割の発揮状況 ①その主体は誰で、どのような役割を果たしましたか。 ②その主体が役割を発揮するために、行政はどのような働きかけをしましたか、又は、配慮してきましたか	4年間の振り返り	①本事業へ参加した市民によって、その内容をより多くの市民に広く情報発信することができた。また、訪問した地域の関係者が、飯田に対する関心を高め、市民と直接交流を深めるような関係の構築に協力している。 ②過去に構築されてきたネットワークをさらに広げ、そのネットワークを大きくしていくための支援や情報収集、問題提起等、当市と訪問地域との関係をつなげ深めるための働きかけを行った。また、参加者から提供された情報や提言を市民に広く周知するための取り組みを行った。		
	後期に向けた課題	①参加した市民が、継続して訪問した地域とのパイプ役を担っていくような仕組みが不十分である。 ②多様な立場の市民が参加することと同時に、いくつものフィールドで様々な関係が構築されるような働きかけが必要である。		
全体を通じて	4年間の振り返り	・職員や市民の交流を継続してきたドイツ ウルム市からは、今後直面する変化や魅力あるまちづくりの実現に向けた有益な取り組みを学ぶことができ、それらを報告会及びレポートを公開することで多くの市民へ情報共有することができた。また、その中で構築されたネットワークによって、飯田を対外的に発信することができ、研修を通して得られた情報によって、当地域の魅力や新たに求められるものの分析につながった。		
	後期に向けた課題	・「小さな世界都市」の実現に向けて、環境や都市計画、文化交流の他に、産業や福祉、教育等の視点からのアプローチによってプログラムを組み立てることが必要である。		

7 「対象」「意図」「結果」の関係の確認

事務事業を統合・分割する必要はありますか	ない	対象や意図を修正する必要はありますか	ない	成果指標や指標値を修正する必要はありますか	ある
----------------------	----	--------------------	----	-----------------------	----

8 総合評価・次年度の事業の方向性改善の計画

<input type="checkbox"/> 完了	<input type="checkbox"/> 拡大	<input type="checkbox"/> 縮小	<input type="checkbox"/> 別事業に統合	<input type="checkbox"/> 休止廃止	<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持	<input type="checkbox"/> 目的見直し	<input type="checkbox"/> 事業のやり方改善
-----------------------------	-----------------------------	-----------------------------	---------------------------------	-------------------------------	--	--------------------------------	-----------------------------------